

令和 2 年度事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号

公益財団法人 目黒寄生虫館

はじめに

当法人は寄生虫学の研究等事業と普及啓発事業を通じて、寄生虫学の発展に寄与することを目的としている。研究等事業では職員による研究活動のほか、他機関との共同研究が複数行われている。普及啓発事業では博物館を運営するほか、刊行物や教育用標本の頒布、他団体から各種の協力依頼に応じている。当年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各事業が影響を受けた。当年度に実施された事業について、以下の通り報告する。

研究等事業（定款第4条第1号事業）

当該事業では、寄生虫の分類形態学を主体とし、遺伝子解析を含めて幅広い研究を行っている。研究成果は各種の学会大会にて報告し、論文を発表している。また、標本・文献・論文別刷・過去の研究者の残した歴史資料等の学術資料は、適切に保管・管理するとともに、アーカイブ化を進めている。資料の管理と活用を通じて、今後の研究の発展に貢献している。さらに、培った専門知識を基盤として広く一般に向けて助言・指導を行うなど、多様な観点から専門性の高い事業活動を展開している。コロナ禍でフィールド調査が制限され、学会大会が誌上開催やオンライン開催に変更になるなど、出張を伴う業務が減少した。職員は交代で在宅勤務とし、感染リスクの軽減に努めている。

I. 寄生虫学に関する研究・調査活動

1. 寄生虫学に関する研究

A. 論文、その他

- 1) Azofeifa, B. C., V. Z. Segura, F. Q. Padilla, E. V. van der Wielen, F. V. Solís, T. Iwaki, H. Sugiyama, A. Jiménez and J. A. M. Acuña (2021): First report of the trematode *Platynosomum illiciens* (Trematoda: Digenea) in *Felis catus* in Costa Rica, Central America. *Revista Ciencias Veterinarias*, 39(1): 1–8.

コスタリカで初めてネコから吸虫 *Platynosomum illiciens* を発見し、報告した。

- 2) Goto, R., T. Takano, D. J. Eernisse, M. Kato and Y. Kano (印刷中): Snails riding mantis shrimps: ectoparasites evolved from ancestors living as commensals on the host's burrow wall. *Molecular Phylogenetics and Evolution*.

シャコに寄生するイシカワシタダミの系統的位置を検討した。本種は自由生活性の祖先が無脊椎動物の巣穴共生の獲得を経て寄生者へと進化したことが示された。

- 3) 巖城 隆 (2020): ヒバカリ *Hebius vibakari vibakari* から採集された線虫 *Hexametra quadricornis*. *獣医寄生虫学会誌*, 19(1): 40–43.

東京都および埼玉県で採集されたヒバカリの皮下から採集された線虫を *Hexametra quadricornis* の成虫と同定した。

- 4) 巖城 隆, 佐田 直也, 長谷川 英男, 松尾 加代子, 中野 隆文, 古島 拓哉 (2020): 日本国内のヘビ類の口腔に寄生する吸虫 *Ochetosoma kansense* (Plagiorchiida: Ochetosomatidae). 日本野生動物医学会誌, 25(4): 129–134.
西日本各地で捕獲された4種のヘビ類の口腔から採取された吸虫を *Ochetosoma kansense* と同定した。今回の結果は新宿主・新分布報告となる。
- 5) Iwaki, T., K. Tamai, K. Ogimoto, Y. Iwahashi, T. Waki, F. Kawano and K. Ogawa (2020): New records of *Philometra pellucida* (Jägerskiöld, 1893) (Nematoda: Philometridae) from the body cavity of *Arothron mappa* (Lesson) and *Arothron nigropunctatus* (Bloch et Schneider) reared in aquariums, with synonymisation of *Philometra robusta* Moravec, Möller et Heeger, 1992. Folia Parasitologica, 67: 025.
水族館のケショウフグとコクテンフグに寄生していた線虫を *Philometra pellucida* と同定した。過去にケショウフグから新種記載された *Philometra robusta* は *P. pellucida* のシノニムと考えられた。
- 6) 自見 直人, 高野 剛史, 藤田 喜久, 長澤 和也 (2020): 棘皮動物に共生する動物. 海洋と生物, 42(4) (2020年8月号; 通巻249号): 356–361.
棘皮動物に共生・寄生する無脊椎動物について、これまで明らかになっている知見をまとめて解説した。
- 7) Komatsu, N., N. Itoh and K. Ogawa (2020): Heavy metacercarial infection in the abdominal cavity of hatchery-reared Japanese dace *Tribolodon hakonensis*. Fish Pathology (魚病研究), 54(3), 53–60.
種苗生産したウグイの腹腔にメタセルカリアの重篤寄生例があった。虫体の形態と遺伝子解析から *Posthodiplostomum* 属の吸虫と判断した。
- 8) Murata, R., J. Suzuki, Y. Kodo, K. Kobayashi, K. Sadamasu, T. Takano, T. Iwaki, T. Waki and K. Ogawa (2021): Probable association between *Anisakis* infection in the muscle of skipjack tuna (*Katsuwonus pelamis*) and human anisakiasis in Tokyo, Japan. International Journal of Food Microbiology, 337: 108930.
2018年と2019年に東京都内でカツオ摂取によるアニサキス症例を調査した。2018年5月のカツオ筋肉中の *Anisakis simplex* 幼虫出現率が他期間に比べて高かったことが同年における患者増加の一因と推測された。腹身の生食を避けることがアニサキス症予防に有効と考えられた。
- 9) Ogawa, K., H. Mizuochi, T. Yamaguchi, S. Shirakashi, N. Asai and Y. Agawa (2021): *Benedenia akajin* n. sp. (Monogenea: Capsalidae) from leopard coral grouper *Plectropomus leopardus* reared in Okinawa Prefecture, Japan. Fish Pathology (魚病研究), 55(4), 117–124.
石垣島で飼育中のスジアラの鱭に寄生していた単生類を *Benedenia* 属の新種として記載した。

- 10) 岡島 淳悟, 舟越 康之, 小林 和弘, 新井 英人, 米山 智子, 巖城 隆 (印刷中): 都内のと畜場における肉用牛の眼虫類寄生状況 (2019~2020). 獣医寄生虫学会誌.
牛の *Thelazia* 属眼虫類の寄生について、全国規模で肉用牛が搬入されると畜場で一万頭以上の牛を対象に寄生状況を調査したが、全ての牛に寄生は認められなかった。
- 11) Okamoto, M., A. Okino, M. Freeman and K. Ogawa (2021): Larval cucullanid nematode infection in the liver of ayu. *Fish Pathology* (魚病研究), 55(4), 142–150.
天然アユの肝臓に寄生する線虫について初めて報告した。虫体の形態と遺伝子解析の結果、ククラヌス科の3期幼虫の寄生と判断した。アユを捕食する魚が終宿主になっていると想定した。
- 12) Sata, N., H. Takeuchi and T. Nakano (2020): Description of a new species of *Rhabdias* (Nematoda: Rhabditida: Rhabdiasidae) from Ishigakijima island, Okinawa, Japan. *Species Diversity*, 25(2): 171–175.
石垣島産ヤエヤマヒメアマガエルの肺に寄生していた *Rhabdias* 属線虫1種を *Rhabdias kiri* として新種記載した。
- 13) Shirakashi, S., T. Matsuda, N. Asai, T. Honryo and K. Ogawa (2020): In vivo cultivation of tuna blood fluke *Cardicola orientalis* in terebellid intermediate hosts. *International Journal for Parasitology*, 50(10/11): 851–857.
クロマグロの住血吸虫 *Cardicola orientalis* のスポロシスト幼生を中間宿主を含む数種のゴカイに接種したところ、中間宿主のフタエラフサゴカイ以外のゴカイにも感染が成立し、増殖が確認された。
- 14) Sugiyama, H., Y. Monrisha, C. Kagawa, J. Araki, T. Iwaki, H. Ikuno, Y. Miguchi, N. Komatsu, Y. Kawakami and H. Asakura (2020): Current incidence and contamination sources of ascariasis in Japan. *Food Hygiene and Safety Science*, 61(4): 103–108.
回虫症の現状を理解し潜在的な感染源を特定するため、文献を広範囲に調査し、検査施設からデータを収集した。科学雑誌に報告された回虫症例数は2002年以降減少し、検査機関のデータでは2009年以降、検出数の減少が顕著であった。
- 15) 高野 剛史 (2020): 寄生性巻貝の多様性と生態を探る. うみうし通信, 108: 4–6.
棘皮動物に寄生するハナゴウナ科貝類の多様性や進化、生態について、自らの研究を踏まえ解説した。
- 16) Takano, T. and R. Goto (2021): Molecular and morphological systematics of the crinoid-parasitic snail genus *Goodingia* (Mollusca: Caenogastropoda: Eulimidae) with new insights into intrafamilial phylogenetic relationships. *Marine Biodiversity*, 51: 5.
ウミシダに寄生する *Goodingia capillastericola* を日本から初めて記録し、同種のパプアニューギニア産標本と遺伝子を比較した。また同属タイプ種 *G. varicosa* のタイプ標本と殻形態を比較した。

- 17) Takano, T., T. Iwaki, T. Waki, R. Murata, J. Suzuki, Y. Kodo, K. Kobayashi and K. Ogawa (印刷中): Species composition and infection levels of *Anisakis* (Nematoda: Anisakidae) in the skipjack tuna *Katsuwonus pelamis* in the Northwest Pacific. Parasitology Research.

日本周辺でカツオにおけるアニサキス属線虫の寄生状況を調べ、海域により種構成や遺伝的傾向が異なることを明らかにした。これにより同属線虫がカツオの生物標識として利用可能であることが示唆された。

- 18) 高野 剛史, 都築 章二 (2020): 沖縄県座間味島から得られたハナゴウナ科貝類. ちりぼたん, 50(2): 205–212.

沖縄県島尻郡座間味村（座間味島）の潮下帯より得られたハナゴウナ科貝類 23 種を報告した。

B. 学会発表

- 1) 巖城 隆, 玉井 健太, 荻本 啓介, 岩橋 佑佳, 脇 司, 河野 文美, 小川 和夫: 水族館のケショウフグおよびコクテンフグの腹腔に寄生していた線虫 *Philometra pellucida* について. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

水族館のケショウフグとコクテンフグに寄生していた線虫を *Philometra pellucida* と同定した。過去にケショウフグから新種記載された *Philometra robusta* は *P. pellucida* のシノニムと考えられた。

- 2) 村田 理恵, 神門 幸大, 鈴木 淳, 横山 敬, 貞升 健志, 高野 剛史, 巖城 隆, 佐田 直也, 小川 和夫: 2019 年に漁獲されたカツオにおけるアニサキスの寄生状況調査. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

2019 年のカツオにおけるアニサキスの寄生状況を調査し、2018 年との比較を行った。2019 年の初カツオによるアニサキス食中毒報告数の減少は、*Anisakis simplex* 相対寄生数の低下が影響したと推察された。

- 3) 中尾 稔, 佐々木 瑞希, 脇 司, 巖城 隆: 日本産ロイコクロリディウム属吸虫の種多様性、岩手県からの第 4 種目の発見. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

岩手県で発見された *Leucochloridium* 属吸虫は日本国内で第 4 種目と判明し、この種が本州東北部太平洋側にスポット的に分布していることが確実となった。

- 4) 小川 和夫: ブリ属魚類に寄生する単生類 *Zeuxapta* の分類の再検討. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

Zeuxapta の模式種 *Z. seriolae* のタイプ標本を再記載した結果、日本のヒラマサやカンパチ寄生の *Z. japonica* は *Z. seriolae* のシノニムと判断した。世界のブリ属に寄生する *Zeuxapta* の分類の再検討が必要と結論した。

- 5) 佐田 直也: 石垣島産ヒメアマガエルから得られた *Rhabdias* 属線虫の分類学的研究. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

石垣島産ヤエヤマヒメアマガエルの肺に寄生していた *Rhabdias* 属線虫の形態観察を行い、その分類学的地位について論じた。

- 6) 高野 剛史, 佐田 直也, 巖城 隆, 柳澤 牧央, 徳武 浩司, 植田 啓一: 日本近海におけるアニサキス科線虫 *Pseudoterranova ceticola* の初記録および本種の系統的位置. 第 89 回日本寄生虫学会大会, 誌上開催, 2020 年 5 月.

Pseudoterranova ceticola の、コマッコウに寄生した成虫およびカツオに寄生した幼虫を報告した。また幼虫の遺伝子情報に基づく分子系統解析により、アニサキス亜科における本種の系統的位置を推定した。

- 7) 高野 剛史, 後藤 龍太郎: ウミシダに寄生する *Goodingia* 属腹足類 (ハナゴウナ科) の分類・分布・系統的位置. 日本貝類学会令和 2 年度大会, オンライン開催, 2020 年 12 月.

ウミシダ寄生性の *Goodingia* 属腹足類を日本から初めて記録し形態を報告するとともに、遺伝子解析によりハナゴウナ科内での系統的位置を決定した。

C. 研究助成

- 1) (独)日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 平成 31~令和 3 年度 若手研究
「寄生生態と初期発生様式から探るハナゴウナ科腹足類の多様化プロセス (19K16221)」
(研究代表者 高野 剛史)

ハナゴウナ科貝類の多様性把握を目的に、日本国内で採集された標本、およびパリ国立自然史博物館から貸与を受けているサンプルについて、ミトコンドリア DNA の COI 領域を用いたバーコーディングを継続している。令和 2 年度は特にセトモノガイ属、コノワタヤドリニナ属、*Goodingia* 属の解析ならびに論文執筆に注力した。また、殻頂部を含む殻形態観察にもとづく邦産種の多様性把握にも努めた。

- 2) (独)日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 平成 29~令和 2 年度(繰越) 挑戦的研究 (萌芽)「古代人における疾患の解明と看護・介護の復元 (18K19690)」
(研究代表者 藤田 尚 [同志社大学] – 研究分担者 巖城 隆)

古病理学と看護学とを融合させ、当時の病人について看護・介護がどう行われていたかを調べ、病理病態・治療史(看護史)を解明した。結核とトレポネーマ症を中心に研究を行うとともに、疾病研究の一つとして遺跡の土中から寄生虫卵の検出を試みた。

2. アニサキスによる日本近海魚の汚染状況の調査

令和 2 年度食品健康影響評価技術研究「アニサキス汚染実態調査およびリスク低減策の評価に関する研究 (内閣府食品安全委員会)

2020年6月から11月にかけて各地で漁獲されたカツオを4回、計31尾、2020年3月から10月にかけて各地のマサバを4回、計30尾について、内臓および筋肉におけるアニサキス属幼虫の寄生状況を調べた。カツオからはI型とII型、マサバからすべてI型幼虫が検出された。カツオ31尾中、2尾に各1虫、マサバでは30尾中、15尾に最高40虫の筋肉寄生がみられ、いずれも *Anisakis simplex* であった。また、2020年11月から2021年3月にかけて和歌山県で養殖されていたマサバを3回、計30尾を同様に調べたが、アニサキスはまったく寄生していなかった。

II. 学術資料の収集および管理

1. 学術資料の収集と貸出

当法人が所蔵する寄生虫・宿主標本は現在約60,000点である。

研究員が研究・展示のために収集した標本に加え、外部研究者からの寄贈標本の整理およびデータベース登録を継続中である。当年度の標本寄贈は18件・206点であった。

外部研究者への標本貸出は2件・6点で、来館した研究者の標本閲覧は2件・5点であった。他の博物館の展示協力等として標本2件・3点、資料1件・6点を貸し出した。文献資料の閲覧・貸出申請は7件・24点であった。

当法人が所蔵する寄生虫のタイプ標本は、当年度は8種・51点が追加され、令和3年3月時点で1,266種・4,335点である。これらの詳細は「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」として公式ウェブサイトで公開している。

2. 学術資料の整理

当法人では学術資料を適切に管理するため、常に資料整理とデータ化・アーカイブ化を進めている。

A. アーカイブの公開

目黒寄生虫館公式ウェブサイトでは前述のタイプ標本の他に、複数のアーカイブを作成・公開している。刊行物では「日本における寄生虫学の研究(和文版/英文版)」「目黒寄生虫館研究報告」「目黒寄生虫館月報/ニュース」「むしはむしでもはらのむし通信」がある。寄生虫標本・文献に関するものでは「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」「日本の哺乳類寄生蠕虫類リスト」「日本の鳥類寄生蠕虫類リスト」「山口左仲博士の報告した日本の魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類の寄生蠕虫類」がある。平成31年度より、職員の研究業績の一覧(平成26年度以降)を研究員ブログのページに掲示している。

B. 論文別刷等の整理と電子情報化

書庫に保管する論文別刷等は令和3年3月末時点で約43,000件であった。また、近年は研究者間ではPDFファイル形式での論文等のやり取りが主流となっており、入手したPDFファイル約6,700個を共用サーバー内に保管している。公式ウェブサイトでのこれら別刷等の一覧の公開を準備中である。

C. 図書・逐次刊行物の整理

1) 図書

購入または寄贈により、当年度に30冊の図書を新たに登録した。蔵書数は令和3年3月末時点で5,225冊となった。一例を以下に示す。

- ・ Biology and Evolution of the Mollusca - Vol. 2 (CRC Press、2020)
- ・ 新版 魚病学概論(恒星社厚生閣、2020)
- ・ 書き込んで理解する動物の寄生虫病学実習ノート(文永堂出版、2020)
- ・ 図説人体寄生虫学 改訂10版(南山堂、2021)

2) 逐次刊行物

当法人では、寄贈や会員購読により約300種類・11,000冊を所蔵している(休刊、廃刊を含む)。当年度は研究機関・学術団体から45種、博物館等の施設から32種の刊行物を受け入れた。それらの施設の一例を以下に示す。

a) 研究報告、紀要等

- ・大阪市立自然史博物館
- ・倉敷市立自然史博物館
- ・観音崎自然博物館
- ・帝京大学総合博物館
- ・山口県獣医師会
- ・日本生物地理学会 他

b) ニュースレター等

- ・姫路市立水族館
- ・鴨川シーワールド
- ・港区立郷土歴史館
- ・ちば県民保健予防財団
- ・水産無脊椎動物研究所
- ・埼玉県立自然の博物館 他

D. その他資料の整理

地下書庫には紙媒体の資料を多数所蔵している。大鶴正満博士、山口左伸博士、佐々 学博士等の資料は当法人に寄贈され、国立感染研究所が所蔵する小宮義孝博士の資料は寄託資料として管理している。これらを後世に残して活用するため、整理とアーカイブ化を進めている。中性紙保存箱への移し替えや目録作成の作業には、多数の関係者の協力を得た。これらの資料の中には、飯島 渉教授(青山学院大学/公益財団法人東洋文庫研究員兼任)が採択を受けた第48回(2019年度)三菱財団人文科学研究助成「20世紀後半の東アジアにおける風土病の制圧過程の検証と疫学的資料の整理・保存・公開」の研究対象となる資料が多数含まれている。また、飯島教授が代表を務めるプロジェクト「感染症アーカイブズ(AIDH)」が運営するウェブサイトでは、当法人保管の資料目録の一部が公開されている。令和3年3月21日にはプロジェクトの年次報告会がオンラインで行われ、発表者の一人として小川和夫館長が現状を報告した。

III. 寄生虫に関する助言および指導、外部研究者との連携協力

来館者による質問は19件で、電話、手紙、電子メール、公式サイトのもうフォームで受けた質問等はそれぞれ21件、0件、0件、14件であった。法人から依頼された寄生虫・異物同定は4件であった。

また、当法人が受入れを許可した研究生2名のほか、卒業論文の作成(1件;近畿大学)に関して指導・助言を行なった。

普及啓発事業(定款第4条第2号事業)

当法人の所有する建物の1階と2階を、無料で一般公開している。昭和28年より67年にわたって運営されてきた、寄生虫学専門の研究博物館である。国内外からの関心は高く、毎年5万人以上が訪れていたが、令和2年3月11日から3か月間の臨時休館を余儀なくされた。6月10日の再開にあたっては、(公財)日本博物館協会が公表した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に準じて対策を講じた。ハンズオン展示や閲覧コーナーなど来館者が触れるものは一時的に撤去し、

タッチパネル展示はいずれも自動再生に切り替えた。各階には消毒液を設置し、職員が定期的に消毒作業を行っている。換気のために非常口を常時開放し、さらに換気扇の交換工事を実施した。このうち、消毒液やゴム手袋など一部の消耗品の購入には、文化庁の「文科芸術振興費補助金（文化施設の感染防止対策事業）」を利用した。

I. 「目黒寄生虫館」の管理運営事業

1. 開館日数および来館者数など

当年度の開館日数は204日であった。開館日は例年より52日少ない。年間来館者数は約24,800名で、1日平均122名である。これは過去5年の平均来館者数の45%にあたる。県外移動の自粛とインバウンド需要が途絶えた影響が大きい。さらに、団体利用を控えるよう周知したことで、従来行われてきた大学や各種学校、カルチャークラブ等の団体見学は行われなかった。

来館者の中には車椅子利用者もいる。入退館には車椅子用リフト（段差解消機）を使用しているが、経年劣化により不具合が生じるようになった。来期早々に交換工事を実施するが、工事費用の半額は、当年度末に採択された(公財)東京観光財団の「美術館・博物館等の観光施設の国際化支援補助金」を充当する。

2. 常設展示の更新

1階中央の展示ケースは、分類群毎に標本瓶を横方向に陳列していたが、各分類群を一目で見られるよう棚3段を使って配置換えをした。これらの標本瓶は、分類群毎にシールで色分けをした。また、多数保管されている山口左仲博士の精密な寄生虫図版を閲覧に供するため、論文原図展示を更新した。当年度は、魚に寄生する単生虫・吸虫類と、鯨類に寄生する吸虫類の原図に入れ替えた。これらの更新作業は臨時休館中に実施した。

また、再開後には1階・2階の標本瓶全てに学名・宿主等のデータや簡単な説明を記したプレートを設置したほか、有害動物の標本ケースの横には簡単な説明を記した解説パネルを取り付けた。

3. 取材対応

当年度の取材申請は計36件で、事後のキャンセルを除き、27件に対応した。申請件数は前年度とほぼ同数である。7件は資料や情報を提供するもので、他の20件は博物館の紹介記事だった。20件の内訳は、TV4件、新聞4件、Web6件、書籍・雑誌5件、ラジオ1件だった。

II. 教育普及活動事業

1. 特別展示

A. 特別展示

1) 「アニサキス症—なぜ2018年に急増したのか?—」(令和2年8月8日～令和3年3月28日)

2018年にカツオの生食によるアニサキス食中毒が急増し、当法人は厚生労働省の委託を受け共同研究により実態調査と原因究明に取り組んだ。特別展示ではその概要について、展示パネル、液浸標本、動画や新種記載論文などの資料をもとに解説した。また、情報コーナーには、カツオやサバの筋肉内のアニサキスを探すクイズ「アニサキスはどこにいる?」や、24問から

なるQ&Aを掲示した。

なお、本展の一部は、平成30年度厚生労働行政推進調査事業で得られた研究成果によるもので、協力者は以下の通りである（敬称略）。鈴木 淳・村田 理恵・神門 幸大・小林 甲斐（東京都健康安全研究センター）・杉山 広（国立感染症研究所）・清藤 秀理（国際水産資源研究所）・脇 司（東邦大学）・吉川 正英（奈良県立医科大学）。

B. 他館等への協力

以下の2団体から依頼を受け、標本や資料の貸出に応じた。

1) 港区立みなと科学館（東京都港区）

企画展「みんなでえがく たべものがたり展」（令和2年10月14日～11月23日）
アニサキス幼虫の標本を提供した。

2) 国立科学博物館（東京都台東区）

特別展「大地のハンター展」（令和3年3月9日～6月13日）
マダニの標本、および数種の蚊とマダニの画像を提供した。

2. 講演会など

A. ミニ解説会

毎月実施してきたミニ解説会は、密集を避けるため、当年度は実施されなかった。

B. 講演依頼の受け入れ

職員による講演等の依頼があった場合には、可能な範囲で受け入れている。講演により寄生虫学に対する関心や理解が深まることが期待される。当年度の講演はすべて動画配信の形式で行われた。

令和2年11月1日～	学士会主催イベント「謝恩の情」（一般社団法人学士会）
30日	「寄生虫研究者のはなし」（高野 剛史）
令和2年11月21日	「いきもにあ2020 “いえもにあ”」（いきもにあ実行委員会） 「他の動物を住処にする寄生・共生貝類の世界」（高野 剛史）
令和3年2月1日～	国際シンポジウム「アニサキス症：現状の課題と今後の展望」
21日	（岡山理科大学） 「水産学的立場から(カツオの事例が増えた理由)」（小川 和夫）

3. 博物館学芸員実習生の受け入れ

当年度の学芸員実習は、感染症対策の見地から、予定していた7名全員の受け入れを中止した。

Ⅲ. 寄生虫学への理解を深める資料の刊行・製作事業

1. 刊行物の製作と頒布

定期刊行物「むしはむしでもはらのむし通信」（B5版 カラー16ページ）は、令和2年12月18日に第

200号を発行した。巻頭の読み物は、前身である「目黒寄生虫館月報」「目黒寄生虫館ニュース」から通算200号に到達した特別号として、『「月報」・「ニュース」・「はらのむし通信」で振り返る目黒寄生虫館－200号を記念して－』と題し、研究・資料・歴史などの視点から、当館にまつわる過去の様々な記録を紐解く内容を掲載した。執筆は全職員が分担して行い、町田昌昭元館長による特別寄稿を掲載した。他のページには、特別展示「アニサキス症－なぜ2018年に急増したのか？－」の解説や、常設展示の更新状況の報告など、1年間の事業活動を紹介した。発行部数600部のうち約190部を関係機関・博物館等に送付し、55部を年度中に一般に向けて有償頒布した。196号からのバックナンバーを含めた総頒布数は154部であった。

また、展示ガイドブック和文版/英文版（B5版 カラー16ページ）の年間頒布数は414部で、内訳は和文版406部、英文版が8部であった。

2. 教育用標本の頒布

当法人では、医学系大学や教育機関等を対象に寄生虫標本を頒布している。これらは講義や実習の中で、寄生虫学を学ぶ多数の学生に活用されている。頒布用の標本は主として当法人で所蔵または作製したものに限られていたが、新たに日本寄生虫学会で発足した「教育用寄生虫標本整備推進事業」の協力を受けることとなった。当年度より、学会の事業を通じて受領した標本についても頒布を開始した。公式ウェブサイト内にリストを公開し、メールやFAXで受注している。当年度は45機関から47件の依頼を受けた。頒布数は、寄生虫卵液浸標本136本、スライド標本767枚であった。

IV. 目黒寄生虫館ミュージアムショップの運営事業

展示室2階のミュージアムショップにて、前述の刊行物の販売と寄生虫学関連書籍・オリジナルグッズの委託販売を行った。博物館見学が一時的なものであるのに対し、寄生虫学への興味関心はグッズや書籍を通じて継続される。それが、ミュージアムショップが「展示空間の延長」と呼ばれる由来である。

臨時休館中にビニールカーテンを設置し、触れるサンプルは極力制限した。電子マネー決済を新規導入し、接客時における接触の機会を減らした。他方、容器包装リサイクル法の関係省令の改正により、7月1日よりレジ袋の有料販売を開始した。また、10月1日より「Go Toトラベル地域共通クーポン」の受付を始めたが3か月で停止されたため、利用実績は5万円台に留まった。臨時休館と来館者数の減少が影響し、売上高は前年度から約50%減少した。

書籍類の販売冊数は年間で559冊であった。期中には新刊「寄生虫のはなし（朝倉書店）」が発行された。さらに、「ヒトと動物の寄生虫鑑別アトラス（エデュワードプレス）」「犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド（同）」を追加したため、取扱書籍は合計で17種類となった。

その他実施事項等

I. 理事会・評議員会等の開催

1. 令和2年度第1回定時理事会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日 令和2年6月5日（金）

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 令和元(2019)年度事業報告書案の承認の件

第2号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 令和元(2019)年度計算書類等の承認の件

第3号議案 内閣府への定期提出書類の承認の件

第4号議案 定時評議員会の日時及び目的である事項等の件

2. 令和2年度第1回定時評議員会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日 令和2年6月20日（土）

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 令和元(2019)年度事業報告書案の承認の件

第2号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 令和元(2019)年度計算書類等の承認の件

第3号議案 任期満了に伴う理事の選任の件

第4号議案 任期満了に伴う監事の選任の件

3. 令和2年度第1回臨時理事会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日 令和2年6月20日（土）

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 理事長および常務理事の任期満了に伴う選任の件

4. 令和2年度第2回臨時理事会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日 令和3年2月5日（金）

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 令和2年度補正収支予算書案（「資金調達及び設備投資の見込み」を記載した書類を含む）の承認の件

5. 令和2年度第2回定時理事会開催

開催日時 令和3年3月7日（日） 午後1時～3時

開催場所 目黒寄生虫館6階 生涯学習室

出席理事数 9名（総数9名） 出席監事数 1名（総数2名）

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

審議事項 下案を審議し、可決承認した。

第1号議案 公益財団法人目黒寄生虫館令和3年度事業計画書案及び収支予算書案（「資金調達及び設備投資の見込み」を記載した書類を含む）の承認の件

第2号議案 館長の辞任ならびに選任の件

第3号議案 常務理事の辞任ならびに選任の件

第4号議案 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の改正案の件

第5号議案 臨時評議員会の日時及び目的である事項等の件

6. 令和2年度第1回臨時評議員会（みなし決議）

開催があったものとみなされた日 令和3年3月22日（月）

決議があったものとみなされた内容

第1号議案 監事の辞任に伴う選任の件

第2号議案 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の改正の件

第3号議案 非常勤理事の報酬額の決定の件

II. 省庁および自治体等への届出事項、他

令和2年

4月3日	令和元(2019)年度競争的資金に係る間接経費執行実績報告書	文部科学省
4月16日	「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリスト	文部科学省 (研究公正推進室)
5月10日	持続化給付金の申請	中小企業庁
5月27日	法人税申告書	目黒税務署
5月27日	法人都道府県民税確定申告	渋谷都税事務所
6月24日	一般財団法人変更登記申請(理事・監事・代表理事の変更)	東京法務局
6月24日	令和元(2019)年度事業報告書・収支決算書等の届出書	内閣府
7月8日	理事・監事・代表理事の変更の届出	内閣府
7月15日	文化施設の感染症防止対策事業補助金の申請	文化庁
12月7日	体制整備等自己評価チェックリスト	文部科学省

令和3年

3月5日	休日労働・時間外労働に関する協定書	品川労働基準監督署
3月10日	令和3年度事業計画書および収支予算書の届出	内閣府
3月23日	一般財団法人変更登記申請(理事・監事の変更)	東京法務局
3月24日	「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」変更の届出 その他、各種調査書類等への回答	内閣府 内閣府等

III. その他の事項

1. 運営資金について

臨時休館により事業収益が前年度の50%を下回ったことが確認されたため、持続化給付金の200万円を受領した。給付金は、各部門の事業収益に対する減少幅に基づいて配分した。

6月に再開してからも来館者数の減少は避けられず、事業収益の悪化と寄付金の減少が大きな問題となった。減収額の試算から目標額を500万円に設定し、8月15日に「目黒寄生虫館をご支援ください」と、館内と公式ウェブサイトに窮状を訴える文章を掲載した。同時に、関係者約300名に依頼文を送付する予定だった。ところが、掲示を見た来館者のSNSが拡散したことをきっかけに、ネット送金や銀行振込が相次いだ。その結果、5日間で1,270名から595万円を超える送金があった。年度末時点では延べ2,400名を超える送金と来館者の募金により、1300万円以上の寄付金を受領した。寄付

者には御礼文を送り、必要に応じて領収書を発行した。

2. 公式ウェブサイト

公式ウェブサイト (<https://www.kiseichu.org/>) では目黒寄生虫館の事業内容の紹介や開館案内の情報を定期的に発信し、情報公開のページでは遅滞なく電子公告を行っている。また、研究員ブログでは研究活動や講演報告等の様々な取り組みを紹介している。当年度の閲覧数は195,421人で、1日平均535人であった。ただし、前項の寄付の呼び掛けが広く拡散されたことを受け、一時的に閲覧数が急増した。8月17日～19日に49,272人からの閲覧があり、年間の4分の1以上を占めている。この3日間を除くと、平均閲覧数は1日404人となった。

3. 博物館に隣接する自動販売機について、雑収入を計上した。

IV. 人事

令和3年3月31日 小川和夫館長 退任

附属明細書

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。